世界の情勢（アメリカ）II

科目ナンバリング　ARS-108
【Ⅳ】　選択　2単位

茶野　純一

1. 授業の概要（ねらい）

アメリカでは「異形の大統領」ドナルド・トランプの治世が終わり、「ワシントン・インサイダー」であるジョゼフ・バイデンが率いる政権が2年目に入っています。近年の中国の台頭や多極化傾向にある世界の流れはあるも、アメリカは依然として超大国であり、よくも悪しくも国際社会に対する強い影響力を行使しつつ、政治、経済、文化の様々な領域において、重い存在であり続けています。

本講義では、「世界の情勢（アメリカ）Ⅰ」で学んだ基礎的事項、獲得した知識をベースに、パブリック・ディプロマシーと米国保守思想を切り口として、アメリカを舞台とする世界各国の競争、米国内政と世界秩序との関係、社会の分断と民主主義の将来等の諸課題について考察します。

講義終盤は、バイデン政権成立後2年経過の時点で実施される米国中間選挙結果を踏まえ、コロナ対策、国内亀裂の修復、インフレ鎮静化、主要同盟関係の再構築等、各種政策課題にかかる政権実績に対する米国民の評価を分析します。また、2024年大統領選挙に向けた民主・共和両党の動きを概観し、帰趨についての考察をクラス全体で進めていきます。

2. 授業の到達目標

①「世界の情勢（アメリカ）Ⅰ」で修得した基礎知識、世界とアメリカとの関係を読み解く能力をさらに拡張し、国際社会に対するアメリカの影響力と将来の世界情勢について、仮説に基づき他者に説明できる能力を身につける。
②アメリカとの二国間関係を強化しようとするアジア主要各国の動きを理解し、日本にとって決定的に重要な日米関係の将来について、米国の政治状況を踏まえて他者に説明できる能力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

①平常点：40%（授業コメント票／リアクション・ペーパー）
②期末試験：60%
*授業コメント票／リアクションペーパーに記された質問等について、翌週またはそれ以降の講義で回答します。
*期末試験はレポート試験（字数2000字程度）とします。試験のテーマは講義終盤に発表・通知します。
*レポート試験は、a. 問題把握の度合い、b. 論理構成、c. 議論のクラリティ、d. 議論に使われる情報の種類と量、e. 思考と作文のオリジナリティを基に評価します。
*最新の剽窃チェッカーを用いて、レポートをチェックします。他の文書等からのカット＆ペーストによるレポート作成が認められる場合は、当然のことながら不合格となります。

4. 教科書・参考文献

教科書
教科書は指定しません。毎回の授業でレジュメ、参考資料等を配布します。
参考文献
金子将史、北野充　『パブリック・ディプロマシー戦略 イメージを競う国家間ゲームにいかに勝利するか 』　PHP研究所（2014）
パット・チョート　『影響力の代理人―アメリカ政治を動かすジャパン・マネー』　早川書房（1991）
ケント・カルダー　『ワシントンの中のアジア - グローバル政治都市における攻防 』　中央公論新社（2014）
宮田智之　『アメリカ政治とシンクタンク: 政治運動としての政策研究機関』　東京大学出版会（2017）
渡辺靖　『アメリカン・センター―アメリカの国際文化戦略』　岩波書店（2008）
ラッセル・カーク　『保守主義の精神』（上・下）　中央公論新社（2018）
ロバート・ケーガン　『ネオコンの論理』　光文社（2003）
会田弘継　『トランプ現象とアメリカ保守思想』　左右社（2016）
久保文明、金成隆一　『アメリカ大統領選』　岩波書店（2020）
佐橋 亮
『米中対立-アメリカの戦略転換と分断される世界』　中央公論新社（2021）
エリオット・アッカーマン、ジェイムズ・スタヴリディス　『2034 米中戦争』　二見書房（2021）

5. 準備学修の内容

前もって次回以降の講義用リーディング・アサインメントを通知しますので、配布参考資料と併せ、読み込んでください。
インターネット、TV、ラジオ、新聞、雑誌等を通じて、日頃からアメリカと世界の動きを知ろうとする努力を続けてください。

6. その他履修上の注意事項

①本講義受講者は「世界の情勢（アメリカ）Ⅰ」を履修していることが望ましい。
②今日の世界情勢を的確に把握するためには日本語のニュースや文献だけでは不十分で、英語メディアからの直接情報摂取が益々重要になってきています。本講義では日本語情報とのバランスを勘案しつつ、適宜英語による資料等を紹介していきますので、積極的に英語と向き合うマインドセットを持って授業に臨んでください。
③本講義は毎回極めて情報量の多い授業となります。アメリカや国際情勢に対する貪欲な知識欲を持つ方々の受講を歓迎し、また、期待します。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　対米パブリックディプロマシー①（影響力の代理人）
【第3回】　対米パブリックディプロマシー②（ワシントンの中のアジア）
【第4回】　対米パブリックディプロマシー③（エスニシティと外交）
【第5回】　対米パブリックディプロマシー④（シンクタンクの役割）
【第6回】　米国のパブリックディプロマシー①（ガリオア、国際放送、USIA）
【第7回】　米国のパブリックディプロマシー②（米国を ‘知らしめる’）
【第8回】　思想と国際政治①（米国伝統保守の精神）
【第9回】　思想と国際政治②（ネオコンが描いた世界）
【第10回】　思想と国際政治③（トランプ現象と米国知的世界の衰退）

【第11回】　思想と国際政治④（米中関係と民主主義の将来）
【第12回】　2022中間選挙結果の検証（バイデン政権の実績評価）〔LMSによるオンデマンド授業〕
【第13回】　2024大統領選挙に向けて①（民主党内の動き）
【第14回】　2024大統領選挙に向けて②（共和党内の動き）
【第15回】　まとめ